

Symphony

TOKYO SYMPHONY ORCHESTRA MONTHLY CONCERT BROCHURE

2025
OCTOBER

No. 148

Sat. 4th October
Tokyo Opera City Series

No. 735

Sat. 11th October
Subscription Concert

No. 103

Sat. 18th October
Kawasaki Subscription Concert

No. 143

Sun. 19th October
Niigata Subscription Concert

10



Jonathan Nott, *Music Director*



TOKYO SYMPHONY ORCHESTRA

Jonathan Nott, Music Director

音楽監督	ジョナサン・ノット
桂冠指揮者	ユベール・スターン
正指揮者	原田慶太楼
名誉客演指揮者	大友直人
永久名誉音楽監督	秋山和慶 ◆
永久名誉指揮者	アルヴィド・ヤンソンス ◆

上田 仁 ◆

遠山信二 ◆

名誉コンサートマスター 大谷康子

第1コンサートマスター 小川にキティンブレブ

景山昌太郎

小林杏成

コンサートマスター 田尻 順

吉江美桜 *

会 長 澤田秀雄

理事長 岡崎哲也

副理事長 平澤 創

依田 異

専務理事 廣岡克隆

理 事 阿部武彦 辻 敏

池辺晋一郎 永山 治

伊藤美樹 夏野 剛

大橋 博 南部靖之

コシノジュン 福川伸次

菅谷貴子 増岡聡一郎

竹中平蔵 森 京子

監 事 寺西基之

渡邊芳樹

評議員長 梅沢一彦

評議員 穴水 孝 金山茂人

鷗海量明 星 久人

片山泰輔 芳野まい

加藤英輔

最高顧問 金山茂人

特別顧問 飯島延浩 福田紀彦

草壁悟朗

1st Violins

○木村正貴
○堀内幸子
○森岡ゆりあ
小川敦子
立岡百合恵
土屋杏子
中村楓子
水谷有里
吉川万理

2nd Violins

○清水泰明
○服部亜矢子
○加藤まな
○福留史純
河堀あずさ
小山あずさ
鈴木浩司
辻田薫り
阿部真弓
坂井みどり
吉田みのり *

Violas

○青木篤子
○武生直子
○西村真紀
○多井千洋
○山廣みほ
新井瑞穂
小西応興
鈴木まり奈

Cellos

☆伊藤文嗣
□笹沼 樹
○川井真由美
内山剛博
蟹江慶江 ●
樋口泰世
福岡茉莉子
渡邊ゆかり

Double Bases

□助川 龍
○コーデ・
ローズブーム
○北村一平
○久松ちず
安田修平
渡邊淳子
内岡沙月 *

Flutes

□相澤政宏
○竹山 愛

Flute & Piccolo

濱崎麻里子

Oboes

○荒 絵理子
○荒木良太
浦脇健太

Oboe & English horn

最上峰行

Clarinets

○エマニュエル・ヌヴー
○吉野亜希菜
近藤千花子

Bassoons

○富士マリ子
○福井 蔵
坂井由佳
前関祐紀

Horns

○上間善之
加藤智浩
白井有琳
藤田麻理絵

Trumpets

○澤田真人
○ローリー ディラン
野沢岳史 ●
松山 萌

Trombones

○大馬直人
○鳥塚心輔
住川佳祐

Bass Trombone

藤井良太

Tuba

近藤陽一

Timpani & Percussions

○清水 太
○山村雄大
武山芳史
網川淳美

Harp

渡辺沙羅

Librarians

林 知也
加藤幸子

Stage Managers

西岡理佐
山本 聡

楽団委員

井伊 準 ◆

楽団長

廣岡克隆

編成局シニアディレクター

藤原 真

編成局パーソネルマネージャー

謝名元 民

楽団委員

小西応興 (議長)
浦脇健太 (書記)
清水 太
鈴木浩司
網川淳美
最上峰行

事務局長

辻 敏

事務局

□高瀬 緑
市川萌都
伊藤瑛海
榎 日向
小川博司
相原美砂
長久保宏太郎
三橋真琴
山田道子
□梶川純子
藤山保子 *
山本未央子 *

名誉団友
深江泰輔 ◆
三木靖雄 ◆

団 友

天野佳和
新井 汎
安藤史子
池田 肇
石川陽依世
今村和弘
岩澤淳子
上原正二
上原規照
上原未莉
内田彬雄
内田乃側子
宇都 美
梅田 学
大隅雅人
大塚正昭
大田浩明
大和田ルース
小川さく子
萩野 昇
奥田昌史
首川健二
加護谷直美
笠原勝一
甲藤さち
加藤信吾
金澤 茂
久保田一穂
熊谷仁士
荻原亮司
小林照雄
小林利彰
小林亮子
阪本正彦
佐川聖二
佐々木真
塩谷しずか
篠崎 隆
豊野明彦
杉浦直基
鈴木一輝
曾根敦子
高野成昭
武田英昭
田中真輔
千村雅信
十亀正司
豊山 信
永井聖乃
中塚和良
中塚博則
中山 智
新澤義美
西依智子
西脇芳治
野村真直
馬場隆弘
原田美保子
日野 奏
ペアン・
ボーマン
前田健一郎
松崎里絵
丸山正昭
三浦正信
宮原祐子
宮本直樹
宮本 睦
森みさ子
諸橋健久
邊辺 功
邊辺哲郎
邊辺裕子

【ハープ寄贈：環境ステーション株式会社】

☆ソロ首席奏者 □客演首席奏者 ●首席奏者 ○フォアシュペラー ●インスペクター
□部長 □シニアディレクター * 研究員・準事務局員 ◆ 故人

演奏会でのお願い

Concert Manner Guide



チケットに記載された 座席でご鑑賞ください

チケットに記載されている座席番号にのみ有効です。座席移動はご遠慮ください。

Please be seated at the seat number designated on your ticket.



開演前に電子機器の 電源はOFFに

マナーモードにしても振動する音が響きますので、電源は必ず切るようにしましょう。

Switch OFF your mobile telephones, wristwatch alarms and all other noise-emitting electronic devices before the performance begins.



補聴器の確認を

ご使用のお客様は、きちんと装着されているか今一度お確かめください。

For our guests who wear hearing aid devices, please check that your device is suitably set before the performance begins.



周囲の視界を遮るような 行為はやめましょう

身を乗り出している鑑賞や、つばの広い／高さのある帽子は脱いでご鑑賞ください。リズムをとる行為もおやめください。

Please refrain from wearing hats or rhythmically swaying in a way which could disturb or obstruct the view of those seated near you.



開演後の入場を 制限させていただきます

開演後のご入場は制限させていただきます。

You will not be permitted to enter the concert hall during a performance.



演奏中の飲食は ご遠慮ください

のど飴等の包み紙を開ける音は、場内に響きますのでご遠慮下さい。

Refrain from eating and drinking during the performance.



演奏中はお静かに

手荷物につけている鈴やビニール袋等は音を立てないようにご配慮下さい。演奏中の私語、プログラムやスコア等紙類をめくる音、かばんのチャック等をさわる音も思っている以上に場内に響きます。

Please be silent during the performance.



咳、くしゃみをする際は ハンカチで押さえましょう

ハンカチをあてがうことで音量はかなり軽減されます。

Please use a handkerchief to help suppress the noise from any coughing or sneezing.



曲の余韻も 演奏のうちです

音が消えゆく余韻を十分に感じてから拍手をお送りください。

The lingering sounds and moments are part of the performance. Please hold your applause or shouting your appreciation until the actual end of the performance.



カーテンコールを除いて、ホール内での録音・録画・写真撮影は禁止です

終演後のカーテンコールの撮影は、自席にご着席のまま、周りのお客様へご配慮いただきますようお願いいたします。

※前半終了時、アンコール演奏中は撮影いただけません。

※スマートフォン、携帯電話以外のカメラでの撮影、自撮り棒の使用、フラッシュの使用、目線より高い位置での撮影はご遠慮ください。

Photography, filming and recording are prohibited, but it is permitted to film the curtain call after the concert. Photography is not permitted at the end of the first half or during encore performances. Please refrain from taking pictures with cameras other than smartphones and mobile phones, using selfie sticks, using flash, and taking pictures at eye level or higher.

10/4 SAT.

東京オペラシティシリーズ 第148回

2025年10月4日(土) 14:00 東京オペラシティコンサートホール

Tokyo Opera City Series No.148

Sat. 4th October 2025, 14:00 Tokyo Opera City Concert Hall

大友直人 [指揮]

ティボー・ガルシア [ギター]

小林孝成 [コンサートマスター]

OTOMO Naoto, Conductor

Thibaut GARCIA, Guitar

KOBAYASHI Issey, Concertmaster

ブラームス:交響曲 第3番 ヘ長調
op.90(40')

- I.アレグロ・コン・ブリオ
II.アンダンテ
III.ポコ・アレグレット
IV.アレグロ

休憩(20')

ロドリゴ:アランフェス協奏曲(25')

- I.アレグロ・コン・スピリト
II.アダージョ
III.アレグロ・ジェンティーレ

ラヴェル:ボレロ(15')

BRAHMS : Symphony No.3 in F major
op.90 (40')

- I. Allegro con brio
II. Andante
III. Poco Allegretto
IV. Allegro

Intermission (20')

RODRIGO : Concierto de Aranjuez (25')

- I. Allegro con spirito
II. Adagio
III. Allegro gentile

RAVEL : Boléro (15')

●主催/公益財団法人東京交響楽団

●助成/文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術等総合支援事業(公演創造活動)) | 独立行政法人日本芸術文化振興会

新宿フィールドミュージアム参加公演

楽曲解説はP.6をご覧ください



10/4 SAT.



©Rowland Kirishima

OTOMO Naoto

Conductor

大友直人

[指揮]

Honorary Guest Conductor
名誉客演指揮者

桐朋学園在学中にNHK交響楽団を指揮してデビュー以来、日本のクラシック音楽界をリードし続けている。これまでに日本フィル正指揮者、大阪フィル専属指揮者、東京響常任指揮者、京都市響常任指揮者、群馬響音楽監督を歴任。現在東京響名誉客演指揮者、京都市響桂冠指揮者、琉球響音楽監督、高崎芸術劇場芸術監督、瀬戸フィルハーモニー響ミュージックアドバイザー。

東京交響楽団とは20年間にわたり100回を超える定期公演として「大友直人プロデュース東京芸術劇場シリーズ」を展開したほか、現在も続く「こども定期演奏会」の企画立ち上げ、立案、構成、演奏を初回から12年間担当した。大学在学中の1981年の初共演以来、既に600回を超える共演を重ねている。その中には創立60周年記念公演として京都市交響楽団との合同演奏によるシェーンベルグの「グレの歌」、ジョン・アダムスのオペラ「フラワーリングツリー」日本初演、黛敏郎の遺作オペラ「古事記」日本初演、三枝成彰のオペラ「忠臣蔵」「ジュニアバタフライ」初演など国内外の多くの初演曲を含む多彩な演目を開拓してきた。

大阪芸術大学教授、東邦音楽大学特任教授。京都市立芸術大学、洗足学園大学各客員教授。

Since his debut with NHK Symphony at the age of 22, Naoto Otomo has led the highly competitive music scene of Japan. He currently serves as Honorary Guest Conductor at Tokyo Symphony, Conductor Laureate of Kyoto Symphony, Music Director at Ryukyu Symphony (Okinawa), Artistic Director of Takasaki City Theatre, and Music Adviser at Seto Philharmonic. For over 20 years, he has produced more than 100 performances of the "Naoto Otomo Produces Tokyo Metropolitan Theatre Series" with the Tokyo Symphony Orchestra. He also directed the "Children's Subscription Concert Series" for its first 12 years. Since their first collaboration in 1981 while he was still a university student, they have performed together over 600 times. He is a Professor at Osaka University of Arts and a Specially Appointed Professor at Toho Gakuen School of Music. He is also a Visiting Professor at Kyoto City University of Arts and Senzoku Gakuen College of Music.



©Warner Classics-Erato

Thibaut GARCIA

Guitar

ティボー・ガルシア
[ギター]

ティボー・ガルシアは、この10年で同世代で最も才能のあるギタリストの一人としての地位を確立した。ロンドンのウィグモア・ホール、ウィーンのコンツェルトハウス、アムステルダム・コンセルトヘボウ、シャンゼリゼ劇場、ヴェルビエ音楽祭、メクレンブルク・フォアポンメルン音楽祭など、世界中の最高のホールやフェスティバルで演奏している。

2016年からトゥールーズ・キャピトル国立管のレギュラー・ゲストを務め、また、ラジオ・フランス・フィルハーモニー管、ストラスブール・フィルハーモニー管、BBCオーケストラの数々、イル・ド・フランス国立管、リヨン国立管などと共演。

2015年権威あるギター・ファウンデーション・オブ・アメリカ (GFA) コンクールで優勝。2017年から2019年にBBCニュー・ジェネレーション・アーティスト。2019年ヴィクトワール・ドゥ・ラ・ムジーク・クラシックの「インストゥルメンタル・ソリスト・レベレーション」受賞。2016年以来ワーナークラシックス/エラートのアーティスト。

This last decade, Thibaut Garcia has established himself as one of the most gifted guitarists of his generation. He is now performing in the finest halls and festivals around the world: Wigmore Hall in London, Konzerthaus in Vienna, Concertgebouw Amsterdam, Théâtre des Champs-Élysées, Verbier Festival, Mecklenburg-Vorpommern Festival etc..

A regular guest of the Orchestre National du Capitole de Toulouse since 2016, he has also collaborated with the Orchestre Philharmonique de Radio-France, the Orchestre Philharmonique de Strasbourg, the BBC orchestras, the Orchestre National d'Ile de France, the Orchestre National de Lyon.

First prize winner of the prestigious Guitar Foundation of America (GFA) competition in 2015, BBC New Generation Artist (2017-2019), « Révélation Soliste Instrumental » of the Victoires de la Musique Classique in 2019. Thibaut Garcia has been a Warner Classics/Erato artist since 2016.

10/4 SAT.

ヨハネス・ブラームス(1833~1897)

交響曲 第3番 ヘ長調 op.90

1883年の夏をブラームスはライン川を臨むヴィースバーデンで過ごし、この地で「交響曲第3番」を作曲する。ウィーンに戻った1883年10月、ドヴォルザークがブラームスを訪問する。ドヴォルザークはジムロックへの手紙の中で、これほど陽気なブラームスをみたことがなかった、と語っている。この折、彼はブラームスに新作の交響曲の演奏を所望し、その求めに応じてブラームスは第3番の第1楽章と第4楽章をピアノで演奏して聴かせている。作品は作曲の年の12月2日にハンス・リヒターの指揮によりウィーンで初演された。作品は初演当時から高い評価を得、ウィーンの音楽評論家のハンスリッヒは「健康的で、生氣あふれるベートーヴェンの第2期を思わせ、ところどころにシューマンやメンデルスゾーンのあのロマン派的薄光がほのかに見えてくる」と評価している。この作品は第1楽章の冒頭の動機がこの楽章の最後の部分、そして第4楽章の最後の部分で循環的に用いられるほか、中間の第2楽章と第3楽章がヘ長調およびハ短調でシンメトリックに構成されている。

第1楽章 アレグロ・コン・ブリオ ヘ長調 4分の6拍子

上行の3つの和音で開始し、ヘ長調の下行分散和音の動機とコントラバスの奏するヘ短調の上行分散和音の動機で開始する。この下行分散和音の動機はシューマンの「交響曲第3番」との関連性が注目されている。第2主題はクラリネットによって提示され、その旋律は歌曲のように美しい。

第2楽章 アンダンテ ハ長調 4分の4拍子

比較的短い楽章で、全体は3つの部分から構成されている。クラリネットが主要主題を奏し、ファゴットがそれを支え、この木管楽器の動機にヴィオラとチェロが応える。

第3楽章 ポコ・アレグレット ハ短調 8分の3拍子

響きによる心象風景を見事に表現した楽章で、一編の音詩というにふさわしい。主題はチェロのパートで示される。中間部分を経て、再現部では冒頭の主題がホルンで奏され、深い感動を与える。

第4楽章 アレグロ ヘ短調 ヘ長調 2分の2拍子

弦楽器のユニゾンで開始し、躍動感あふれるフィナーレ。最後は第1ヴァイオリンが第1楽章の冒頭の下行動機の主題を静かに奏して作品を締めくくる。

西原稔 Text by NISHIHARA Minoru

作曲:1883年

初演:1883年12月2日ハンス・リヒター指揮、ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団

編成:フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、コントラファゴット、ホルン4、トランペット2、トロンボーン3、ティンパニ、弦5部

ホアキン・ロドリーゴ(1901~1999)

アランフェス協奏曲

15世紀、ルネサンス時代のスペインに原型となる楽器が登場して以来、ずっとギターはスペインのお家芸であった。

古典派のソル(1778~1839)、ロマン派のタレガ(1852~1909)といった当代きっての大ギタリストがギター音楽を牽引してきたが、20世紀に入るとギターを弾けない作曲家による名作が増えていく。その最たるものが本作だ。

3歳で視力を失った作曲家ロドリーゴは、1927年からはパリに留学してデュカスに師事。周囲の協力によって楽譜を書き続けた。1933年、結婚の際にスペインへ一次帰国すると、新妻と共にアランフェスを訪れる。その時に受けた深い感銘は、1936~39年にかけて起こったスペイン内戦に心を痛めたロドリーゴが書き上げた本作へと反映されたのだった。初演者のデ・ラ・マーサに、ギターで演奏可能かどうか確かめながら作曲されたと言われているが、ギタリストにかなりの負担を強いるフレーズが満載。実は数あるギター協奏曲のなかでも難曲のひとつとなっている。

第1楽章はギターの和音が、フラメンコに登場するような6拍子と3拍子が交差する心地よいリズム(ヘミオラの一種)を奏で、その上に様々な主題となるメロディが乗っていく。徐々に転調が繰り返されていき、フランス音楽的な色彩感も漂わせるが、物悲しい雰囲気となった主題をチェロが歌うあたりから展開部へと突入。フラメンコ色が強くなっていく。

第2楽章は、ジャズやポップソングへと編曲されたことで余りに有名になった楽曲だが、この旋律は作曲家自身の弁によればアランフェスで出会った流産に悲しむ女性へ捧げたものだという。変奏を繰り返しながら、悲しみが感極まっていく。

第3楽章は2拍子と3拍子が交代するリズムが基調となって進んでいくが、第1楽章を思わせる旋律も回帰。軽やかでありながらもフィナーレに相応しい華やかな音楽が展開される。

小室敬幸 Text by KOMURO Takayuki

作曲: 1939年

初演: 1940年11月9日カタルーニャ音楽堂、セサル・メンドーサ・ラサリーエ指揮、レビーノ・サインス・デ・ラ・マーサ独奏、バルセロナ・フィルハーモニー管弦楽団

編成: 独奏ギター、フルート2(ピッコロ持替1)、オーボエ2(イングリッシュホルン持替1)、クラリネット2、ファゴット2、ホルン2、トランペット2、弦5部

10/4 SAT.

モーリス・ラヴェル(1875~1937)

ボレロ

ラヴェルは「ボレロ」について、「とても特殊な、限定された方向での実験」であると述べている。確かに「ボレロ」という作品は、同じリズムと主題が「しつこさの極限まで」(ラヴェル自身の言葉)繰り返されるという、前代未聞の形式で書かれている。繰り返しのたびに主題とリズムを担当する楽器が交代し、音色が多彩な変化を遂げていく。それと同時に楽器の数も音量もしだいに増大し、しまいには大音響となって炸裂する。まさにオーケストレーションの達人、ラヴェルならではの発想といえる。もともとは前衛的な舞踏家、イダ・ルビンシテインの舞踊の音楽として作曲されたが、ラヴェルがコンサートで自ら指揮するなどして純粋なオーケストラ曲として人気を博し、今日に至っている。

小太鼓(スネアドラム)が打ち続けるリズムは、スペインの民族舞曲、ボレロのリズムである。だが、ラヴェルは「モデラート・アッサイ」のやや遅めのテンポを設定することにより、民族舞曲が本来もっている軽やかな躍動感を抑えている。そのためリズムがいっそう強調され、どこか機械の動きを思わせる。ラヴェルは名指揮者トスカニーニが速いテンポで演奏するのを聴いて激怒したぐらい、テンポを重視していた。ボレロのリズムは小太鼓以外の楽器も巻き込みながら、次第に迫力を増していく。主題は大きく2つの部分からなり、前半は全音階的で明るく、後半はアラブ風のエキゾチックな雰囲気をもっている。この主題が多様な楽器の音色によって塗りかえられていき、ピッコロ・ホルン・チェレスタが異なる調で同時に主題を奏するなど、斬新な響きも聞こえてくる。オーケストラは同じリズムと主題を繰り返しながら厚みと音量を増していくが、終盤ではじめて主題のかたちが崩れ、大音響のままハ長調の主和音で曲は終結する。

遠山菜穂美 Text by TOYAMA Naomi

作曲: 1928年

初演: 1928年11月22日パリ・オペラ座、ワルテル・ストララム指揮(舞踊音楽として)

編成: フルート2(ピッコロ持替1)、オーボエ2(オーボエ・ダモーレ持替1)、イングリッシュホルン、クラリネット2(小クラリネット持替1)、バスクラリネット、ファゴット2、コントラファゴット、ソプラノサックス、テナーサックス、ホルン4、ピッコロトランペット、トランペット3、トロンボーン3、チューバ、ティンパニ、小太鼓2、タムタム、シンバル、大太鼓、チェレスタ、ハープ、弦5部

10/11 SAT.

第735回 定期演奏会

2025年10月11日(土) 18:00 サントリーホール

Subscription Concert No.735

Sat. 11th October 2025, 18:00 Suntory Hall

スザンナ・マルッキ [指揮]

景山昌太郎 [コンサートマスター]

Susanna MÄLKKI, Conductor

KAGEYAMA Shotaro, Concertmaster

ベートーヴェン:交響曲 第6番

へ長調 op.68「田園」(45')

- I. 田舎に到着した時の嬉しい感情の目覚め
 II. 小川のほとりの情景
 III. 田舎の人たちの楽しい集い
 IV. 雷雨、嵐
 V. 羊飼いの歌(牧人の歌)、嵐の後の喜びと感謝の気持ち

休憩(20')

ストラヴィンスキー:

バレエ音楽「春の祭典」(35')

第1部「大地礼賛」

序奏／春のきざし - 乙女たちの踊り

誘拐／春の踊り

敵の都の人々の戯れ／長老の行列

大地への口づけ／大地の踊り

第2部「いけにえ」

序奏／乙女たちの神秘的な集い

選ばれしいけにえの賛美

祖先の呼び出し／祖先の儀式

いけにえの踊り

BEETHOVEN: Symphony No.6

in F major op.68 "Pastoral" (45')

I. Allegro ma non troppo

II. Andante molto moto

III. Allegro

IV. Allegro

V. Allegretto

Intermission(20')

STRAVINSKY:

The Rite of Spring (35')

Part 1: Adoration of the earth

Introduction / The augurs of spring - Dances of young girls

Ritual of abduction / Spring round dances

Ritual of rival tribes / Procession of the sage

Adoration of the earth / Dance of the earth.

Part 2: The Sacrifice

Introduction / Mystic circles of the young girls

Glorification of the chosen one

Evocation of the Ancestors / Ritual action of the Ancestors

Sacrificial Dance (The chosen one)

●主催／公益財団法人東京交響楽団

●助成／文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術総合支援事業(公演創造活動)) | 独立行政法人日本芸術文化振興会

●後援／フィンランド大使館

楽曲解説はP.11をご覧ください



10/11 SAT.



©Jiyang Chen

Susanna MÄLKKI

Conductor

スザンナ・マルッキ
[指揮]

現在、ヘルシンキ・フィルで名誉指揮者を務め、首席客演指揮者(2017年~2022年)を務めたロサンゼルス・フィルをはじめ、フィラデルフィア管、クリーヴランド管、ニューヨーク・フィル、シカゴ響、ボストン響、ロンドン響、ライプツヒ・ゲヴァントハウス管、バイエルン放響、ベルリン・フィルなどに客演。アンサンブル・アンテルコンタンポランの音楽監督(2006年~2013年)も務めた。メトロポリタン歌劇場、ウィーン国立歌劇場、スカラ座、英国王立歌劇場など、主要な歌劇場へも数多く出演。数々の貢献が認められ、2011年にはフィンランド最高の栄誉のひとつであるフィンランド獅子勲章プロ・フィンランドディア・メダル、フランスの芸術文化勲章オフィシエ(2014年)とコマンドゥール(2022年)フランスのレジオン・ドヌール勲章シュヴァリエ(2016年)を受章。2024年にはヘルシンキ芸術大学から名誉博士号を授与された。

Susanna Mälkki, one of today's most sought-after conductors, is Chief Conductor Emeritus of the Helsinki Philharmonic (2016–2023), and was Principal Guest Conductor of the LA Philharmonic (2017–2022), and Music Director of Ensemble intercontemporain (2006–2013). From August 2025, she assumes the position of Professor of Orchestral Conducting at the Sibelius Academy. She has led leading orchestras including the New York Philharmonic, Chicago Symphony, Boston Symphony, London Symphony, Staatskapelle Berlin, and the Berlin Philharmonic. Equally acclaimed in opera, she has conducted at the Metropolitan Opera, Wiener Staatsoper, Teatro alla Scala, the Royal Opera House, and Opéra national de Paris, with repertoire spanning Mozart's *Le nozze di Figaro*, Beethoven's *Fidelio*, Verdi's *Falstaff*, Wagner's *Tristan und Isolde*, and Saariaho's *Innocence*. Her artistry has been recognized with Finland's Pro Finlandia Medal. She was also appointed Officier and Commandeur de l'Ordre des Arts et des Lettres, named Chevalier of the Légion d'honneur in France, and awarded an honorary doctorate from Uniarts Helsinki.

ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン(1770~1827)

交響曲 第6番 ヘ長調 op.68「田園」

ベートーヴェン(1770~1827)の交響曲第6番《田園》は、交響曲第5番《運命》と一緒に1808年12月22日、ウィーンで初演された。その約1ヶ月半後、ドイツのライプツィヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団で、2月9日にまず《運命》が、そして3月26日に《田園》が演奏された。その時の演奏会評が、4月12日号の『総合音楽新聞(AMZ)』に詳しく残されている。評は2頁に及ぶ長文で、《運命》を評したあと、《田園》については次のように始まる。「2つ目の新しい交響曲も自筆譜での演奏だった。彼自身によって「パストラーレ」と名付けられ(中略)第5番に劣らぬ、注目すべき独自の作品である」。

このあと、楽章ごとの詳細が続く。例えば第二楽章については、「着想から至極単純で、感情においても、実際の書法においても大変柔らかく、また明らかに意図的に、極めて均一に書かれている」と評されている。「単純で、意図的に均一」なんて言われたら、第二楽章が8分の12拍子で、ゆったりと同じリズムで進む様子が、ありありと目に浮かんでしまう。書き方が、すごくうまい。

そしてこの評者は、第三楽章と第四楽章を「最も優れた部分」だと言う。曰く、「まさにそうあるべき姿で、着想が豊かで、着想を実現するためにも力強さと効果を備えているので、驚嘆と喜び無しに聞くことができない」とのこと。さらに、この第三楽章は「ハイドンのオラトリオ《四季》における葡萄作りの人々の喜びに似ている」と言う。《四季》は1801年の作品だが、《田園》のライプツィヒ初演に近い記録としては、1807年の秋に、ゲヴァントハウス管で演奏されている。読者と比較を共有できる作品が《四季》だったとは面白い。そして、最後の第五楽章をちょっとけなしている。なんでも、「第四楽章でとどろく嵐が、エネルギーと執拗さをもって描き出されており、その豊かさと巨匠の技がすごすぎるために、後続の第五楽章が映えない」のだそうだ。「《四季》のように嵐の後の場面を単純にしておけば良かったのに」ということらしい。ライプツィヒ初演評、なかなか大胆である。このあと、《田園》が演奏会のレパートリーになっていくことは、言うまでもない。

小石かつら Text by KOISHI Katsura

作曲:1807~1808年

初演:1808年12月22日ウィーン、アン・デア・ウィーン劇場

編成:フルート2、ピッコロ、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン2、トランペット2、トロンボーン2、ティンパニ、弦5部

10/11SAT.

イーゴリ・ストラヴィンスキー(1882~1971)

バレエ音楽「春の祭典」

古代ロシアの異教徒たちが大地の繁栄を願って豊穡神に若い娘をいけにえとして捧げる、という筋書きのバレエ「春の祭典」。そのエキゾチックな設定に加え、斬新な振付と音楽。1913年のパリでの初演は賛否両論を巻き起こしたが、今やこうしてベートーヴェンと比肩するような古典作品となった。こんな日がこようとは、作曲家ストラヴィンスキー(1882~1971)は予想だにしなかっただろう。

本公演で私たちは巨匠の田園交響曲のあとに、同じく自然の壮大さに関連のある《春の祭典》を聴く。この好機には音楽学者ジョセフ・ストラウスの記号論的解釈がヒントとなるかもしれない。彼はこの大作を「田園的」、「軍隊的」、「儀式的」、「野生的舞踊」の4つのシンボルから捉えることを提案している。それらは、第1部・第2部の各々で、複合しつつもサイクルを描いているという。

第1部「大地礼賛」。(序奏)は春の田園的風景。木管楽器の連打やトリルは鳥の声の模倣。弦楽器のダウン・ボウで開始する躍動的な〈春のさざし-乙女たちの踊り〉。時折挟まれる半音階は、魔的な力の象徴。〈誘拐〉で、男たちが女たちを暴力的に略奪し、ホルンが狩猟の笛を鳴らす。民謡旋律を用いた〈春の踊り〉で、一時の安らぎから重々しい弦楽器の旋律へと移行し、次第に儀式的な色を帯びていく。〈敵の都の人々の戯れ〉は、2つの部族の争い。暴れ回るティンパニとそれに対抗する金管楽器。大音響の〈長老の行列〉。唐突な断絶を経て、〈大地への口づけ〉で部族の長が地に口づけすると、大地が轟く。人々は円になって野生的な〈大地の踊り〉を舞い、歓呼する。

第2部は「いけにえ」。不吉な夜を纏った〈序奏〉。啜り泣くかのヴィオラ6重奏による〈乙女たちの神秘的な集い〉となり、運命の合図とともに、ある娘がいけにえに選ばれる。打楽器の11連打で開始する〈選ばれしいけにえの賛美〉で、彼女は礼賛の対象となる。管楽器の叫びによる〈祖先の呼び出し〉を通じて死の世界と接続されたのちに、ベートーヴェンの第9のトルコのマーチを彷彿させる〈祖先の儀式〉へ。皆が見守るなか、運命を背負った乙女は〈いけにえの踊り〉を神へ捧げ、狂乱のまま尽き果てる。

池原舞 Text by IKEHARA Mai

作曲: 1911~1913年

初演: 1913年5月29日パリ、ピエール・モントゥー指揮、バレエ・リュス

編成: フルート3(ピッコロ持替1)、ピッコロ、アルトフルート、オーボエ4(イングリッシュホルン持替1)、イングリッシュホルン、クラリネット3(バスクラリネット持替1)、小クラリネット、バスクラリネット、ファゴット4(コントラファゴット持替1)、コントラファゴット、ホルン8(ワーグナーチューバ持替2)、トランペット4、ピッコロトランペット、バストランペット、トロンボーン3、チューバ2、ティンパニ2、大太鼓、タンバリン、アンティークシンバル、トライアングル、タムタム、ギロ、弦5部

10/18 SAT. 19 SUN.

川崎定期演奏会 第103回

2025年10月18日(土) 14:00 ミューザ川崎シンフォニーホール

Kawasaki Subscription Concert No.103

Sat. 18th October 2025, 14:00 Muza Kawasaki Symphony Hall

第143回 新潟定期演奏会

2025年10月19日(日) 17:00 リューとぴあ 新潟市民芸術文化会館 コンサートホール

Niigata Subscription Concert No.143

Sun. 19th October 2025, 17:00 Ryutopia Concert Hall

佐藤俊介 [指揮&ヴァイオリン]

竹山愛 [フルート]

福井蔵 [ファゴット]

濱崎麻里子 [フルート]

上間善之 [ホルン]

荒木良太 [オーボエ]

加藤智浩 [ホルン]

最上峰行 [オーボエ]

重岡麻衣 [チェンバロ]

浦脇健太 [オーボエ]

景山昌太郎 [コンサートマスター]

SATO Shunsuke, Conductor&Violin

TAKEYAMA Ai, Flute

FUKUI Osamu, Bassoon

HAMASAKI Mariko, Flute

UEMA Yoshiyuki, Horn

ARAKI Ryota, Oboe

KATO Tomohiro, Horn

MOGAMI Takayuki, Oboe

SHIGEOKA Mai, Cembalo

URAWAKI Kenta, Oboe

KAGEYAMA Shotaro, Concertmaster

フックス: ロンド ハ長調(5')

フレミング: 完全なるドイツ獵師より
"ファンファーレ" (2')J.S. バッハ: ブランデンブルク協奏曲
第1番 ヘ長調 BWV1046(20')

I. [Allegro]

III. Allegro

II. アダージョ

IV. メヌエット

J.S. バッハ: ブランデンブルク協奏曲
第5番 ニ長調 BWV1050(21')

I. Allegro

III. Allegro

II. アッフェットゥオーソ

休憩(20')

J.S. バッハ: ブランデンブルク協奏曲
第3番 ト長調 BWV1048(10')

I. [Allegro]

III. Allegro

II. アダージョ

テレマン: 2つのオーボエと
ヴァイオリンのための協奏曲 TWV53:e2(12')

I. Allegro

III. メヌエット

II. アンダンテ

J.S. バッハ: ブランデンブルク協奏曲
第4番 ト長調 BWV1049(17')

I. Allegro

III. プレスト

II. アンダンテ

FUX: Rondeau in C major (5')

FLEMING: Fanfare from
"Der vollkommene deutsche Jäger" (2')J.S. BACH: Brandenburg Concerto No.1
in F major BWV1046 (20')

I. [Allegro]

III. Allegro

II. Adagio

IV. Menuet

J.S. BACH: Brandenburg Concerto
No.5 in D major BWV1050 (21')

I. Allegro

III. Allegro

II. Affettuoso

Intermission(20')

J.S. BACH: Brandenburg Concerto
No.3 in G major BWV1048 (10')

I. [Allegro]

III. Allegro

II. Adagio

TELEMANN: Concerto for 2 Oboes and
Violin in E minor TWV53:e2 (12')

I. Allegro

III. Menuet

II. Andante

J.S. BACH: Brandenburg Concerto
No.4 in G major BWV1049 (17')

I. Allegro

III. Presto

II. Andante

●主催/公益財団法人東京交響楽団(10/18)、公益財団法人新潟市芸術文化振興財団、BSN新潟放送(10/19)

●助成/文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術総合支援事業(公演創造活動)) | 独立行政法人日本芸術文化振興会(10/18)
文化庁文化芸術振興費補助金(劇場・音楽堂等機能強化推進事業) | 独立行政法人日本芸術文化振興会(10/19)

●後援/川崎市、「音楽のまち・かわさき」推進協議会(10/18) ●協力/ミューザ川崎シンフォニーホール[川崎市文化財団グループ](10/18)

新潟定期演奏会は、新潟市からの補助金の交付を受けて実施しています。

※当初の予定より、曲順が変更となりました。



楽曲解説はP.17をご覧ください

10/18 SAT. 19 SUN.



©Marco Borggreve

SATO Shunsuke

Conductor & Violin

佐藤俊介

[指揮 & ヴァイオリン]

ヴァイオリニストであり、指揮者、室内楽奏者、ソリスト、指導者でもある佐藤俊介の多様さは、彼の多才で臨機応変な性格を反映している。

2013年から23年まで、オランダ・バッハ協会(<http://www.youtube.com/bach>)のコンサートマスターを、18年からは音楽監督を兼務し、2019年9月から10月に行われた同管弦楽団の日本ツアーを成功させた。

2011年からはコンチェルト・ケルンのソリスト、指揮者、コンサートマスターを務めている。

オーストラリア・ブランデンブルク管弦楽団、東京交響楽団などから客演指揮者として定期的に招聘されている。

2013年からアムステルダム音楽院の教授としてヒストリカル・ヴァイオリンを教えている。

録音も「パガニーニ：24のカプリースop.1」、[J.S.バッハ：無伴奏ソナタ&パルティータ(全曲)]等 多数。最新盤は、「BEE1HOVEN 〜ベートーヴェン：ヴァイオリン・ソナタ全集」。

2010年、ライプツィヒの第17回ヨハン・セバスティアン・バッハ国際コンクールで第2位および聴衆賞受賞。出光音楽賞、S&Rワシントン賞受賞。2019年度第61回毎日芸術賞、第70回芸術選奨 文部科学大臣新人賞を受賞。

Shunsuke Sato is a violinist, conductor, chamber musician, soloist and teacher. The diversity of his activities reflects his versatile and resourceful nature. Historically informed performance practice is central to his identity and allows him to inhabit the music and communicate with audiences in dramatic, revelatory ways. He directs and appears as soloist with period ensembles as well as symphonic orchestras around the world. Resident in The Netherlands, Shunsuke has been a faculty member of the Amsterdam Conservatory since 2013. From 2013 to 2023 Shunsuke was concertmaster of the Netherlands Bach Society and from 2018 also the artistic leader. Since 2011, he has worked closely with Concerto Köln, where he has been making noteworthy strides into the realm of the performance practice of the 19th century. Born in Tokyo, Shunsuke immigrated to the US at the age of four. Shunsuke studied at the Juilliard School in New York, Conservatoire National de Région in Paris and Hochschule für Musik und Theater in Munich.

竹山 愛 [フルート] 首席フルート奏者 TAKEYAMA Ai, Flute

東京藝術大学を経て同大学院修士課程修了。ロームミュージックファンデーションの助成を得てミュンヘン音楽演劇大学Zertifikatsstudium Meisterklasseを修了。第79回日本音楽コンクール第1位(併せて岩谷賞)。第26回日本管打楽器コンクール第1位。第8回神戸国際フルートコンクール第3位など受賞歴多数。ソロアルバム「Plays Paris」[GATE]をリリースし、レコード芸術誌において共に準特選盤・特選盤に選出された。これまでにフルートを糸井正博、三上明子、金昌国、神田寛明、斎藤和志、木ノ脇道元、寺本義明、P.ブークリーの各氏に師事。東京藝術大学、洗足学園音楽大学非常勤講師。東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団首席フルート奏者を経て現在東京交響楽団首席奏者。



©N. Ikegami

濱崎麻里子 [フルート] フルート&ピッコロ奏者 HAMASAKI Mariko, Flute

東京藝術大学音楽学部附属高校、同学部を経て同大学大学院修了。学内にて安宅賞、アカンサス音楽賞、三菱地所賞。第55回全日本学生音楽コンクール全国大会中学の部第1位、57回高校の部第1位。第2回日本ジュニア管打楽器コンクール金賞。第6回神戸国際フルートコンクール奨励賞。第17回日本音楽コンクール第1位、併せて兵庫県知事賞、朝日新聞社賞。第26回日本管打楽器コンクール第2位。第14回コンセール・マロニエ21木管部門第1位。第79回日本音楽コンクール第2位。第8回神戸国際フルートコンクール第6位。都村慶子、浅生典子、金昌国、高木綾子の各氏に師事。東京交響楽団フルート&ピッコロ奏者。洗足学園音楽大学非常勤講師。



©N. Ikegami

荒木良太 [オーボエ] 首席オーボエ奏者 ARAKI Ryota, Oboe

大阪府堺市出身。12歳よりオーボエを始める。大阪大学基礎工学部を卒業と同時に東京藝術大学音楽学部器楽科へと進学し、首席で卒業。現在同大学大学院修士課程在籍中。4年次在学中に東京交響楽団のオーディションに合格。これまでにオーボエを大島弥州夫、広田智之、吉井瑞穂、佛田明希子、和久井仁の各氏に師事。第37回日本管打楽器コンクール第1位ならびに東京都知事賞、文部科学大臣賞受賞。東京藝術大学にてアカンサス音楽賞、安宅賞受賞。2023年度公益財団法人青山音楽財団奨学生。その他NHK-FM「リサイタル・パッション」や霧島国際音楽祭、ARK PHILHARMONIC等に出演。またソリストとして藝大フィルハーモニア管弦楽団と共演する。



©N. Ikegami

最上峰行 [オーボエ] オーボエ&イングリッシュホルン奏者 MOGAMI Takayuki, Oboe

福島県南相馬市生まれ。桐朋学園大学音楽学部中退。第69回日本音楽コンクール・オーボエ部門第3位。ソリスト、国内主要オーケストラへのゲスト首席奏者として活動する他、スタジオミュージシャンとして数々のアーティスト、映画、ドラマ、アニメ、ゲームの音楽に参加。また「題名のない音楽会」「EIGHT-JAM」「激レアさんを連れてきた。」等のTV番組にも多数出演し、唯一無二のオーボエ奏者として幅広い活動をしている。これまでにオーボエを鈴木繁、似鳥健彦、蟠崎耕三、宮本文昭の各氏等に師事。現在、東京交響楽団オーボエ&イングリッシュホルン奏者。桐朋学園大学音楽学部非常勤講師。ARCUS、クインテット・アッシュ、エロイカ木管五重奏団、各メンバー。



©N. Ikegami

浦脇健太 [オーボエ] オーボエ奏者 URAWAKI Kenta, Oboe

武蔵野音楽大学卒業。卒業後渡独しドイツ・ハンブルク音楽院修了。第43回長崎県新人演奏会オーディション木管楽器優秀賞受賞、同演奏会出演。これまでにオーボエを大倉安幸、北島章、青山聖樹、Ingo Goritzki、Kaley Kuljus、Melanie Jung、Thomas Rohde各氏に、イングリッシュホルンを北村貴子氏に師事。これまでに、ドルトムント・フィルハーモニー管弦楽団、新日本フィルハーモニー交響楽団、神奈川フィルハーモニー管弦楽団など国内外のオーケストラに客演。ハンブルク国立歌劇場管弦楽団研修団員、ライン・ドイツオペラ、デュイスブルク歌劇場管弦楽団、契約ソロ・イングリッシュホルン奏者を経て2020年に帰国し、2021年より東京交響楽団オーボエ奏者を務める。



©N. Ikegami

10/18 SAT. 19 SUN.

福井 蔵 [ファゴット] 首席ファゴット奏者 FUKUI Osamu, Bassoon

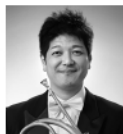
15歳よりファゴットを始める、1986年東京音楽大学を卒業、在学中オーディションによる演奏会、卒業演奏会等多数出演、読売新人演奏会出演、第6回日本管打楽器コンクール入選、1989年東京交響楽団入団、1993年より同団首席奏者就任、ソリストとして東京交響楽団をはじめ、他のオーケストラとも多数共演、2006年NHK名曲リサイタル出演、霧生吉秀、菅原眸各氏に師事。



©N.Ikegami

上間善之 [ホルン] 首席ホルン奏者 UEMA Yoshiyuki, Horn

沖縄県出身。沖縄県立芸術大学卒業、桐朋学園大学研究科修了。ホルンを故 安原正幸氏に師事。シュガーホール新人演奏会優秀賞受賞、第17回日本管打楽器コンクール、第71回日本音楽コンクール、第20回日本管打楽器コンクール、それぞれ入賞。仙台フィルハーモニー管弦楽団を経て、東京交響楽団首席奏者。洗足学園音楽大学非常勤講師。ジャパンホルンクインテット、アレキサンダーホルンアンサンブルジャパン、各メンバー。



©N.Ikegami

加藤智浩 [ホルン] ホルン奏者 KATO Tomohiro, Horn

東海大学付属第四(現:札幌)高等学校、武蔵野音楽大学卒業。ホルンを島方晴康、故 伊藤泰世、須山芳博、丸山勉、日高剛の各氏に、室内楽を故 白尾隆、吉岡アカリの両氏に師事。武蔵野音楽大学在学中、学内オーディション合格者による室内楽のタベに出演。第26回ヤマハ管楽器新人演奏会出演。2009～2011年、サイトウ・キネン・フェスティバル松本「青少年のためのオペラ」小澤征爾音楽塾オーケストラメンバーとして参加。第16回浜松国際管楽器アカデミー & フェスティバルにてジェフ・ネルセンに師事。講師推薦プレミアムコンサートにて第3位受賞。第8回浜松若きヴィルトオーズコンサートに出演。神奈川フィルハーモニー管弦楽団契約団員、シエナ・ウインド・オーケストラを経て、東京交響楽団入団。



©N.Ikegami

重岡麻衣 [チェンバロ] SHIGEOKA Mai, Cembalo

東京藝術大学古楽科チェンバロ専攻卒業、同大学院修士課程古楽科フォルテピアノ専攻修了。ブルージュ国際古楽コンクール奨励賞受賞。ブリュッセル王立音楽院を名誉賞付きディプロマを得て卒業。チェンバロ・通奏低音奏法を鈴木雅明氏、フォルテピアノを小島芳子、ボヤン・ヴォデニチャロフ、ピート・クイケン各氏に師事。2008～13年ベルギー・アントワープ王立音楽院フォルテピアノ科客員教授。「バッハ・コレギウム・ジャパン」など国内外の古楽団体や在京オーケストラに、チェンバロ・オルガン・フォルテピアノによる通奏低音奏者として多数出演している。桐朋学園大学古楽器科嘱託演奏員。



ヨハン・ヨーゼフ・フックス(1660~1741)

ロンド ハ長調

オーストリア出身(シュタイアーマルク地方)のヨハン・ヨーゼフ・フックス Johann Joseph Fux (1660~1741)は、対位法の理論書『パルナッソス山への階段』の著者として有名だが、幅広いジャンルの音楽作品を数多く残している。教会オルガニストとして活動していた彼は、1698年から神聖ローマ皇帝レオポルト1世 Leopold I (1640~1705)に仕え、ウィーン宮廷楽団の宮廷作曲家となった(1700年頃から正式な肩書を得たという説もある)。それまでこの地位には長らくイタリア人作曲家が就いており、イタリア人作曲家以外の音楽家が起用されることは例外的で珍しい人事であった。

本作品の作曲年代と初演についての情報は明らかになっておらず、筆写譜がドレスデン宮廷の音楽コレクションとして残っている。表題にはヴィオリーノ・ピッコロとファゴットの独奏、そして4本のヴィオリーノと通奏低付きの7声のロンドと記載されている。前半は繰り返されるロンド主題に対し、同じ長さの規模のエピソードが独奏楽器によって演奏される。4回目のエピソードから技巧的なパッセージが演奏され、ファゴットがロンド部分で技巧的な変奏をする。後半でエピソード部分の長さは拡張され、ヴァイオリンとファゴットが対等に扱われていることが大きな特徴である。当時のウィーンやドレスデンではフランスで発達した木管楽器が積極的に導入され、フックスの作品には、オーボエやファゴットが積極的に用いられている。

作曲年:不明/初演:不明/編成:独奏ヴァイオリン、独奏ファゴット、チェンバロ、弦5部

ハンス・フリードリヒ・フォン・フレミング(1670~1733)

完全なるドイツ猟師より“ファンファーレ”

18世紀前半のヨーロッパ宮廷文化において、狩猟は領邦君主や貴族にとって単なる娯楽ではなく、権威と統治の象徴であった。『Der vollkommene teutsche Jäger(完全なるドイツ猟師)』は音楽作品ではなく、ザクセン選帝侯フリードリヒ・アウグスト1世 Friedrich August I. von Sachsen (1670~1733)に仕えた上級森林官兼猟師長官ハンス・フリードリヒ・フォン・フレミング Hans Friedrich von Flemming (1670~1733)によって著された狩猟書である。1719年に出版された本書は、当時の地勢・植物・狩猟に関する知識と共に狩猟実務を網羅的に記した百科全書である。その中に、狩猟の際に用いる七種の猟犬用信号の譜例が収められている。その信号の内容は、狩猟を開始して狩猟を終えるまでの間の様々な場面を示すものである。いずれも同音反復や三和音分散を基本素材とし、順次進行が極めて少ない点が特徴である。この狩猟信号は後の音楽家によって浄書や編曲がなされ、今日ではファンファーレ作品として演奏される。本日は二本のホルンによって演奏される。本日演奏するJ.S.バッハ『ブランデンブルク協奏曲第1番』やJ.ハイドン『交響曲第73番「狩」』を聴けば、狩猟信号が音楽史、とりわけホルン作品の発展において重要な役割を果たしたことが理解できるだろう。

作曲年:1719年/初演:不明/編成:ホルン2

保崎佑 Text by HOZAKI Yu

10/18 SAT. 19 SUN.

J.S.バッハ(1685~1750)

ブランデンブルク協奏曲 第1番 ヘ長調 BWV1046

1849年にベルリン王立図書館で所蔵されているヨハン・ゼバスティアン・バッハ Johann Sebastian Bach(1685~1750)の全作品を目録化する作業過程の中で、それまで知られていなかった重要な音楽作品が再発見された。その中には、ブランデンブルク辺境伯クリスティアン・ルートヴィヒ Christian Ludwig(1677~1734)に献呈された「複数の楽器による六つの協奏曲」と記された作品が含まれており、これがのちに「ブランデンブルク協奏曲」と呼ばれるようになった。これらの作曲年代や初演情報は明らかになっていないが、1721年3月24日に献呈用の総譜が完成し、ブランデンブルク辺境伯に送られたと考えられている。

本作品は、急一緩一急一メヌエットの四楽章構成で書かれており、舞曲楽章が含まれている点が特異的である。曲全体を通じて、主にホルン・オーボエ・弦楽器の各グループに分かれ、各楽器群が多様な旋律動機を共有し、ときには応答し合うなど、バロック期の協奏曲において一般的な「TuttiとSoloの対比」というよりも、各声部が対等に扱われる書法が採られている。ファゴットやチェロのパートも単なる通奏低音楽器としてではなく、独立した声部として重要な役割を担う場面があることも大きな特徴である。第1楽章におけるホルンが奏でる狩猟信号風の音型や、ホルンがヴァイオリン群と対等に旋律を担う点、さらに第3楽章で展開されるソロ・ヴァイオリンとホルンの技巧的な部分に、ぜひ注目していただきたい。

献呈日: 1721年3月24日 / 初演: 不明 / 編成: 独奏ヴァイオリン、オーボエ3、ファゴット、ホルン2、チェンバロ、弦5部

J.S.バッハ(1685~1750)

ブランデンブルク協奏曲 第5番 二長調 BWV1050

1717年の終わりからJ.S.バッハはアンハルト＝ケーテン侯レオポルト Leopold von Anhalt-Köthen(1694~1728)に仕え、その地での宮廷楽長として高額な給料を得ていた。ケーテン侯レオポルトは、当時ベルリンの宮廷楽器職人に2段鍵盤の大型チェンバロを注文し、その楽器を1719年にバッハがベルリンへ受け取りに行ったことが会計簿の資料から確認されている。このベルリン滞在中に、バッハがブランデンブルク辺境伯クリスティアン・ルートヴィヒと接触した可能性が指摘されている。

本作品は急一緩一急の3楽章構成で書かれ、独奏楽器はフルート、ソロ・ヴァイオリン、そしてチェンバロである。第1楽章は、リトルネロ形式で書かれており、冒頭から繰り返される比較的短いリトルネロ主題の間に演奏されるコンチェルティーノ部分では、基本的に新しい旋律素材と既出の素材が巧みに展開される。独奏部分を概観すると、フルートとヴァイオリンが旋律を共有し、チェンバロが常に技巧的で装飾的なパッセージを奏でる一方、時に伴奏に徹し、さらには3つの独奏楽器が対等に扱われる点など、様々な書法が見られる。この楽章の中で最も注目すべき点は、最後のリトルネロ主題に入る前に置かれた、60小節以上に及ぶチェンバロ独奏部分である。チェンバロという楽器の可能性を示す先駆的かつ華麗なヴィルトゥオージティを味わうことができる。第2楽章は独奏楽器のみで演奏され、ここでのチェンバロは低音楽器の枠を超えて完全に独立した独奏楽器として扱われる。フーガの形式で書かれた第3楽章は、快活なジグ風の主題がTutti全体で模倣・展開される点に特徴がある。

献呈日: 1721年3月24日 / 初演: 不明 / 編成: 独奏ヴァイオリン、フルート、チェンバロ、ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバス

J.S.バッハ(1685~1750)

ブランデンブルク協奏曲 第3番 ト長調 BWV1048

J.S.バッハはしばしば、自作の器楽曲で扱った素材を教会カンタータに引用した。当時、このような再利用は一般的な慣習であった。1729年に作曲された教会カンタータBWV 174の冒頭のシンフォニアは、この協奏曲第3番第1楽章を改変したものである。興味深いことに、ベルリンに保存されている自筆譜とは別に筆写譜も伝わっており、その内容は献呈譜と若干異なっている。

3本ずつのヴァイオリン、ヴィオラ、チェロという各楽器のグループと通奏低音によって演奏される本作品の特徴は、Tutti全体で壮大に演奏される場面と、各楽器のグループが入れ替わりながら競演する場面が交錯することである。また、各グループの代表楽器が独奏的に技巧を示す部分も多い。第1楽章はリトルネロ形式であるが、冒頭の主題が定型的に回帰するというよりも、各声部が対等に模倣や展開を行うことで、むしろ大規模な弦楽合奏曲のような印象を与える。第3楽章は快活で技巧的な素材を基盤とし、ヴァイオリンとヴィオラの全員が異なる動きを示す箇所が多く、力強いポリフォニーが展開される。特筆すべきは、この作品に緩徐楽章が存在しない点である。両端楽章の間にはフリギア終止の2つの和音のみが書かれており、わずかなカデンツァの部分が示されるだけである。これが即興演奏のために想定されたのか、あるいは経過のために設けられたのか、その真意は明らかではない。本日は、この“橋渡し”の瞬間に生まれる独自の響きをぜひとも味わっていただきたい。

献呈日: 1721年3月24日 / 初演: 不明 / 編成: チェンバロ、ヴァイオリン3、ヴィオラ3、チェロ3、コントラバス

ゲオルグ・フィリップ・テレマン(1681~1767)

2つのオーボエとヴァイオリンのための協奏曲 TWV53:e2

ゲオルグ・フィリップ・テレマン Georg Philipp Telemann (1681~1767) は、最も膨大な作品数を残した作曲家の一人である。また、市民コンサートの基礎を築いたコレギウム・ムジクムを指導したことで知られ、当時の音楽の担い手の拡大に大きく貢献した作曲家である。総作品数はおよそ3600曲にのぼるとされ、1704年にプロムニッツ伯爵 Graf Erdmann II von Promnitz (1683~1745) に仕えていた時期から、ハンブルク市の音楽監督を務めた晩年に至るまで、多様なジャンルの器楽曲作品を作曲した。同時代の大作作曲家と異なる点は、彼が自作を積極的に出版し、商業的にも大きな成功を収めたことである。代表的な出版譜が1733年刊行の『ターフェルムジーク』であり、幅広い編成を含む大規模なコレクションである。

本作品の作曲年代と初演については不明であるが、筆写譜がフックスの《ロンド》と同様に、ドレスデン宮廷の音楽コレクションとして伝承されている。第1楽章はリトルネロ形式で書かれ、リトルネロ主題は全体で4回提示され、3回目を除き同規模で繰り返される。TuttiとSoloの対比は明確であるが、独奏オーボエと独奏ヴァイオリンはTuttiにも加わり、リトルネロ主題の中でも重要な役割を果たしている。独奏ヴァイオリンとオーボエの役割がはっきりと分かれ、とりわけ曲中盤からの独奏ヴァイオリンの技巧的な旋律は聴きどころである。リトルネロ主題で演奏される短い動機がSolo部分でもEinwurf(投げ入れ)のように頻繁に現れ、生き生きとした音楽が途切れることなく展開される。第2楽章は二部形式であり、前半は独奏ヴァイオリン、後半は第1オーボエがオペラのアリアを思わせる美しい旋律を奏でる。終楽章は極めて短いメヌエット楽章であり、トリオを欠いた二部形式で、冒頭から最後までTutti全体で演奏される。興味深いのは、この楽章の後に「第1楽章を繰り返して演奏してもよい」と記されている点である。

作曲年: 不明 / 初演: 不明 / 編成: 独奏ヴァイオリン、独奏オーボエ2、ファゴット、チェンバロ、弦5部

保崎佑 Text by HOZAKI Yu

10/18 SAT. 19 SUN.

J.S.バッハ(1685~1750)

ブランデンブルク協奏曲 第4番 ト長調 BWV1049

18世紀前半の成熟した独奏協奏曲や合奏協奏曲においては、リトルネロ主題を演奏するTutti(R)とSolo(S)が交互して演奏するR-S-R-S-R …のような単純な形式ではなく、各楽器の一般的な役割をあえて入れ替えたりして新しい響きを生み出す手法がみられる。独奏ヴァイオリンと2本のリコーダー(本日の演奏ではフルート)、弦楽と通奏低音のために書かれた本作品はその最たる例と言っても過言ではないだろう。

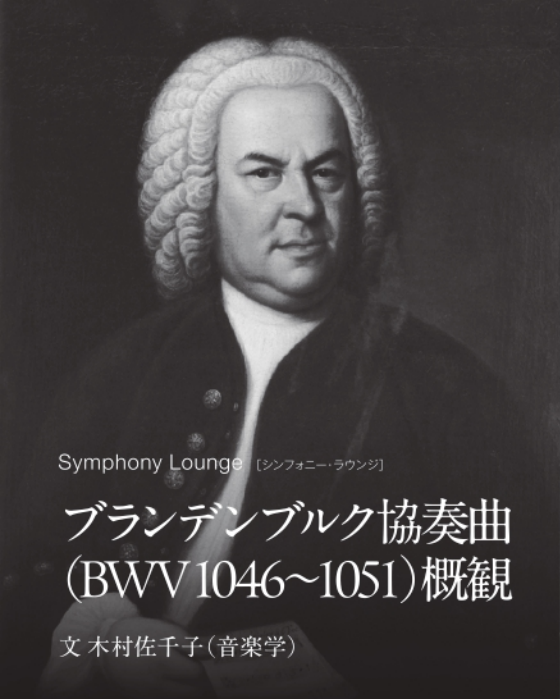
第1楽章は大規模なリトルネロ形式によるもので、リトルネロ主題はさまざまな調を経て全部で6回も回帰する。1回目のSoloでは独奏ヴァイオリンが登場し、続くSoloではフルート、3回目は、独奏ヴァイオリンは華麗で技巧的なパッセージを絶え間なく繰り返し、4回目では独奏ヴァイオリンと第1・第2ヴァイオリンのアンサンブルが際立つ。さらに5回目のSoloではフルートを中心に、独奏ヴァイオリンやチェロ、チェンバロを含むポリフォニックな書法が展開され、毎回異なる発想によって新たな音楽的展開が生み出されていく。第2楽章の独奏部分の旋律は主にフルートによって演奏され、独奏ヴァイオリン・パートとTuttiは伴奏に徹する傾向が強い。曲の後半では独奏ヴァイオリンのみがフルートの伴奏をする三重奏の部分が見られ、無伴奏フルートのSolo部分を経て半終止となり、終楽章へと続く。終楽章も第1楽章同様リトルネロ形式をとっているが、リトルネロ主題はフーガの書法を採っている。独奏ヴァイオリンの超絶技巧がこの曲の大きな特徴であるが、曲全体を通してリトルネロ主題がSolo部分でも断片的に演奏され、各楽器が主題の回帰や対位的な展開に常に関わっていることが本楽章の大きな魅力だろう。

保崎佑 Text by HOZAKI Yu

献呈日: 1721年3月24日

初演: 不明

編成: 独奏ヴァイオリン、フルート2、チェンバロ、弦5部



Symphony Lounge [シンフォニー・ラウンジ]

ブランデンブルク協奏曲 (BWV 1046~1051) 概観

文 木村佐千子(音楽学)

本日の演奏会では、J.S. バッハ(1685~1750)の《ブランデンブルク協奏曲》全6曲のうち4曲がとり上げられる。東京交響楽団の定期演奏会で《ブランデンブルク協奏曲》がとり上げられるのは1978年以来的のことである。バッハは、音楽史ではバロック時代後期の作曲家といわれる。バロック時代とは西洋音楽史で1600~1750年頃を指し、オペラが書かれ始めたり、長調・短調を中心とする今も馴染みの音組織が確立したりした時期だ。この頃の音楽には通奏低音というパートが含まれることが多い。通奏低音とは、楽曲のほぼ全体で複数の楽器により演奏され、音楽を支える低音声部である。チェンバロなど和音の弾ける楽器の奏者は構成和音を示す数字を手がかりに即興的に和音等を補って演奏する。本日演奏される《ブランデンブルク協奏曲》にも、通奏低音パートが含まれる。作曲から300年以上が経ち、

バッハの頃の楽器と現代の楽器では楽器自体や演奏法に違いがある。佐藤俊介氏はバロック時代のヴァイオリンも現代の(モダン)ヴァイオリンも弾きこなす名手。本日は主にモダン楽器での演奏とのこと、どのような音が引き出されるのか、楽しみである。

6曲から成る《ブランデンブルク協奏曲》は、バッハの管弦楽作品のなかでも《管弦楽組曲》(BWV 1066~1069)と並んで親しまれている作品である。バッハがケーテン侯爵の宮廷楽長をつとめていた時期の1721年3月24日付の浄書スコアが残っており、バッハ自身がつけたタイトルは「種々の楽器のための6つの協奏曲」である。だが、献呈の宛名が「ブランデンブルク辺境伯等クリスティアン・ルートヴィヒ殿下」となっていたことから、1870年代以来「ブランデンブルク協奏曲」の愛称で呼ばれる。献呈を受けたクリスティアン・ルートヴィヒ(1677~1734)は、ドイツ北東部を本拠地とするブランデンブルク選帝侯の息子としてベルリンに生まれた。侯の息子全員がブランデンブルク辺境伯という称号を得たという。父が1701年にプロイセン王に即位したことから、プロイセン王子の称号も加わった。なお、クリスティアン・ルートヴィヒら4兄弟は父の2番目の妻の息子であり、息子たちの行く末を案じた母が、オーデル川沿いのシュヴェート城および周辺の領地(現在はポーランド国境に面す)を取得したことから、「ブラン

ブランデンブルク協奏曲(BWV 1046~1051)概観

デンブルク=シュヴェート辺境伯 Markgraf von Brandenburg-Schwedt]とも呼ばれるが、これは通称である。

スコアにフランス語で記された献辞によれば、「二、三年前に殿下の命により御前で演奏をお聴かせする幸運を私は得ました。殿下は天が私に与え給うた拙い音楽の才をお認めくださり、辞去する際に作品ご依頼の栄誉を賜りました」というのが献呈の経緯だったようだ。献呈日付の約2年前、1719年3月にバッハはケーテン侯爵のためにミートケ(1702~1754)が製作した2段鍵盤チェンバロを受け取りにベルリンへ行った。そのときに依頼を受けたのだろう。ベルリンはプロイセン王の本拠地だったが、当時の王フリードリヒ・ヴィルヘルム世(1688~1740)は音楽に関心がなく宮廷楽団を解散した。王の叔父にあたる辺境伯クリスティアン・ルートヴィヒは音楽好きで、王の認可を得てベルリンの城館に宮廷楽団を擁していた。辺境伯が亡くなったとき6人の室内音楽家 Kammer Musici がいたという記録があり、《ブランデンブルク協奏曲》を演奏するには人数が少なかったと考えられたこともある。しかし、バッハがかつて勤めたヴァイマルでは室内音楽家という称号をもつのは5人だけだったが宮廷音楽家は28人いた。辺境伯の遺産には多人数を要するオペラの楽譜もある。バッハの《ブランデンブルク協奏曲》が実際に演奏された記録は伝わっていないが、バッハは辺境伯の宮廷楽団のメンバーで演奏可能な作

品を献呈したに違いない。なお、1721年4月にケーテンの宮廷長官がベルリンに行っていたことが知られる。なぜバッハがベルリン訪問から2年も後になって《ブランデンブルク協奏曲》を献呈したのかについては諸説あるが、ケーテン侯爵からの贈物のようなかたちで宮廷長官が届けたとする説は納得しやすい。

この協奏曲集に含まれる6曲は、すべて編成が異なる。バッハ自身がつけたタイトル「種々の楽器のための6つの協奏曲」が示す通りである。たとえばベートーヴェン(1770~1827)のピアノ協奏曲やヴァイオリン協奏曲では独奏者は1人だが、ブランデンブルク協奏曲にはそういった独奏協奏曲はなく、複数の独奏者と合奏(リピエノ)、複数の楽器群と通奏低音といった編成をとる。本日演奏される楽曲のうち第3番は各3パートのヴァイオリン、ヴィオラ、チェロと通奏低音のために書かれており弦楽器のみの編成だが、第1、4、5番では管楽器も弦楽器も使われている。多様な編成をとるのみならず、作曲法も曲ごとに大きく異なり、これら6曲がいつどのような順で作曲されたのかという問題は長年、研究者たちを悩ませている。献呈スコアは浄書譜であり、この浄書譜作成より前に作曲が終わっていたのは明らかだ。初期稿の伝わる曲もあり、かなり長い期間にわたって作曲されたものがまとめられたと思われる。主調はすべて長調で、宮廷生活に彩りを添えるにふさわしい明るさをたたえ、聴いて楽しめる作品ばかりだ。

Together With TSO

for Music Lovers

東京交響楽団サポート会員

©N. Ikegami

ご芳名 (敬称略)

法人会員

プラチナ会員

株式会社エイチ・アイ・エス
株式会社ドワンゴ

ダイヤモンド会員

有限責任 あずさ監査法人
株式会社伊藤総合事務所
株式会社イノアックコーポレーション
株式会社インサイド・アウト
環境ステーション株式会社
株式会社すかいらくホールディングス
株式会社ティー ワイ リミテッド
株式会社日本財託
株式会社パソナグループ
株式会社雅玖仁

ゴールド会員

株式会社青山メインランド
株式会社あ佳音
オリエンタル酵母工業株式会社
サントリーホールディングス株式会社
社会医療法人財団石心会
玉川学園・玉川大学
中外製薬株式会社
銚子屋油槽船株式会社
株式会社TFDコーポレーション
株式会社鉄鋼ビルディング
株式会社トーションパートナーズ
西松建設株式会社
株式会社NIPPO
株式会社日本M&Aセンター
ヒノキ新薬株式会社
司法書士法人ふなざき総合事務所
ミヨシ油脂株式会社
ヤマザキビスケット株式会社
税理士法人WATANABE

シルバー会員

株式会社NHKビジネスクリエイト
公益財団法人青梅佐藤財団
川崎信用金庫
松竹株式会社
月島食品工業株式会社
東京鐵鋼株式会社
司法書士法人村田事務所

ブロンズ会員

アーティスト ホールディングス株式会社
NPO法人かわさき市民アカデミー
株式会社シグマコミュニケーションズ
新宿村スタジオ
有限会社青史堂印刷
ニッシンエレクトロ株式会社
富士フィルムビジネス
イノベーションジャパン株式会社神奈川支社
前山歯科医院
株式会社LALLヒューマンホールディングス

賛助企業

政鬼運輸株式会社
山崎製パン株式会社

匿名2社

Together With TSO

for Music Lovers

東京交響楽団サポート会員

©N Ikegami

ご芳名 (敬称略)

個人会員

サークル50

伊藤 晴美	澤田 秀雄
伊藤 美樹	清水 尚彦
沖田 陽子	横山 積恵
鷺海 望明	山口 学
木暮 紀子	匿名 4名

サークル25

荒木 陽子	手塚 和彦
猪田 隆文	戸川 二郎
井上 孝昭	長瀬 雅則
岡野 一哉	智史
加藤 英輔	山本 誠一郎
後藤 実	匿名 2名

サークル10

天野 佳和	高田 光官
五十嵐 建平	高津 麻子
井澤 菜緒子	高野 幸一
石川 晴依世	高田 琢己
井上 千恵子	高家 正行
岩田 新	田口 博
内山 誠彦	竹田 忍
麻衣 建一	田中 啓
遠藤 秀和	谷川 明雄
大城 明幹	谷藤 清
大崎 明子	千葉 隆・直子
大島 肇	角田 守正
太田 純子	中澤 豊
大塚 具幸	中村 倉祥
大類 浩	西谷 公男
岡 邦子	橋本 純一
尾崎 茂	原田 美保子
小野 久子	アーネスト M. 比嘉
片山 泰輔	枇杷 高志
片山 千栄	星 久人
金山 尚弘	増岡 聡一郎
金田 好生	三浦 麻子
木賀 賢市	水越 睦美
菊池 光剛	満田 高久
木内 正則・道子	森岸 恭博
小林 光	森口 健
古丸 健	森下 優子
近藤 和喜夫	森下 国彦
*斎藤 秀子	山上 昭
佐々木 貞	山本 典彦
佐野 利勝	山本 重雄
清水 幹雄	山本 明
白井 恭一	
高澤 美貴子	

吉井 久美子
吉村 美恵子

米岡 修一
匿名 15名

森本 由希
森山 健治
安江 仁孝
山田 敏之
山中 喜義

鏡水 みお
横尾 順
吉富 真紀子
吉原 美紗恵
和田 真理
匿名 26名

フレンズ5

東 恭代	高際 比呂志
有江 純子	寺西 基之
石原 祥子	中尾 信男
潮田 伊織	早川 利郎
大川 朋彦	松信 正志
大野 紀子	村松 秀幸
奥秋 和彦	山口 聡
加藤 政晴	山田 修造
河野 愛	山本 喜良
小林 義彦	山本 哲四郎
佐藤 信一郎	古田 匿名 4名
塩澤 誠司	

フレンズ3

明田 重樹	佐久間 明美
荒 洋一	佐藤 悦子
石澤 卓志	佐藤 健司
井上 聖恵	清水 良枝
井上 聡	新保 和浩
岩瀬 正明	杉田 弘也
大崎 純	須田 眞理子
大津 透	関根 三善
大塚 啓一	竹内 あゆみ
大塚 啓司	伊藤 美貴子
大埜 展男	田山 智広
大橋 昌實	都築 豊
*岡村 兵衛	中村 崇明
小川 康恭	中村 元嗣
奥瀬 篤	中村 幸雄
奥田 桂子	永井 洋一
小澤 俊文	西田 悦子
尾島 夕里	西田 尚弘
小田切 明子	根本 直之
皆瀬 修	根本 暢明
加香 雄一	野島 秀太郎
加藤 由美子	林 美奈子
兼子 伸彦	福田 昭夫
菊池 綾	藤田 栄
菊池 伸治	藤田 淑子
木鋪 万裕	藤野 盾臣
北川 優子	*藤森 朗
木下 盛弘	星 直樹
久保田 一穂	堀江 智巳
小本 孝	堀江 一彦
古杉 絢	三橋 正典
小林 美智子	村田 拓郎

フレンズ1

■あ	梅本 千枝子
相磯 浩	江藤 祐子
青野 寛道	大川 剛
赤坂 佳子	大越 貴志子
赤崎 述子	大嶋 正義
赤塚 節恵	大嶋 初彦
浮志 淳子	大嶋 康彦
わが子 裕美子	大嶋 賢久
文男 英司	大塚 由香
幸子 喜信	大塚 慶裕
靖彦 幸吉	大塚 幸吉
阿部 百合子	大塚 節子
阿部 祥一	大森 八木
生田 裕一	岡田 正道
池田 弘昭	岡田 美穂
池田 弘毅	岡田 明徳
石川 紀徳	小川 幾子
磯村 幸一郎	小川 徹
井手 泰宏	沖 知子
伊藤 勉	奥秋 和歌子
伊藤 宗功	奥泉 亮子
伊藤 力雄	奥田 由美子
稲葉 順一	奥貴 壮史
井上 康子	奥村 克彦
猪瀬 正	小倉 茂
今井 聡	尾崎 正美
今井 聡	小名 雅恵
今井 由紀夫	小野 信也
今井 邦男	小野 英樹
今宮 美知子	小野塚 純二
今村 知子	■か
今村 裕子	甲斐 幸士
岩澤 順子	海藤 慶子
岩瀬 裕一	香南 大樹
岩野 和雄	方波 伸一
上田 正昭	葛城 聖隆
白居 重男	加藤 里加子
内海 誠	加藤 善行
宇野 正芳	川口 康一
梅里 秀元	川野 安子



©N Ikegami

東京交響楽団へご支援いただいている皆様です。心より感謝申し上げます。

*新会員の方です。ありがとうございます(9月17日現在。五十音順)。

川之上 裕美子
菅野 広和
菅野 雄平
北野 雅子
北村 眞
木下 泰子
木下 亮平
木村 好一
木村 達央
木村 富士子
清田 一正
久保田 伸一
倉谷 宏樹
栗原 潔
小石 恵子
小泉 博
好土崎 稔子
河野 太
国府 里美
国府 保周
小西 淳
小沼 敬四郎
小林 恭二
小林 宏州
小林 優大
小森 クミオ
小山 智代子
近内 光一
近内 友吏子
後藤 美穂
後藤田 裕二
■さ
*齊木 一宏
齊藤 ひろ子
齋藤 博
齊藤 有司
酒井 典子
坂本 タカ子
前田 禎明
佐久間 昭宏
佐々木 紀明
佐々木 通博
佐々木 基
佐藤 幸子
佐藤 大助
佐藤 孜
佐藤 深雪
佐藤 美和子
佐藤 由紀子
重成 瞳
茂野 俊郎
穴戸 宗太

篠田 一朗
柴橋 俊也
渋川 朋子
嶋谷 宏明
清水 重夫
志村 崇
下田 和代
庄司 一彦
白石 大
杉山 啓次
杉山 慎二
鈴木 慶子
鈴木 啓介
鈴木 孝治
鈴木 隆之
鈴木 忠明
鈴木 美和
諏訪 幸恵
清水 穂名美
清木 翔太
関 洋
関口 あずみ
■た
高木 敏和
高木 晴彦
高野 洋二
高橋 勝弥
高橋 美穂
高橋 有一
高橋 ユリコ
高橋 里奈
高松 則雄
高森 幸男
竹内 聖子
竹内 真也
竹内 みお
竹内 竜太
竹内 和彦
武尾 正隆
林 裕行
林 大和
多田 泰三
田中 敬二
田邊 禎子
田淵 泰弘
田部井 美也
玉井 正浩
千田 晴久
塚田 和男
築館 玲子
津久井 淳
坪井 洋一

鶴岡 敬一
寺田 治男
遠山 淳夫
登原 明史
富川 泰雄
富田 博之
友近 圭祐
朝森 祥悟
豊島 肇生
鳥居 順子
鳥居 夕紀夫
■な
中沢 忠
中村 治人
長岡 秀成
長瀬 利明
永田 郁子
永浜 麗子
達 啓介
西岡 直実
西岡 昌紀
西川 晶
西中川 淑子
西村 淳夫
西村 真
西村 由里子
西山 英昭
山口 信弘
山口 真有美
野村 一成
野村 真澄
■は
橋爪 千鶴子
橋本 和雄
橋本 憲人
長谷川 博
長谷川 真
早川 明男
林 欣吾
林 博子
林本 秀範
原 ひとみ
原田 慶子
春川 京子
坂東 泰子
肥後 恵子
檜谷 亜樹
平沼 行雄
廣瀬 泰文
廣中 直行
深沢 茂実
福嶋 英和
藤田 鋼一

藤田 透
*藤原 正之・文子
古市 雄二
古川 郁子
古澤 美樹
古屋 清敏
宝徳 光樹
堀 浩史
堀川 信子
■ま
牧口 光郎
真木 太郎
幕田 正司
柊井 明
松岡 秀樹
松澤 聡
松下 泰之
松本 繁則
園尾 隆
三神 弘
水野 晴彦
水谷 純子
三田 悦子
宮川 雅之
三宅 健司
宮坂 哲
宮崎 信夫
宮崎 昇
宮寺 陽子
宮本 誠司
村上 信幸
村本 京子
目黒 英一
森 里美
森島 政和
諸岡 喧子
■や
柳沼 美智子
山内 隆幸
山縣 裕兒
山岸 勇一郎
山崎 純代
山田 美生子
山本 博
湯川 俊明
吉江 健志
吉岡 真紀子
吉田 昌敬
吉富 美紀
吉見 幸子
古見 幸子
米田 光
米田 克幸

■わ
渡邊 朋子
C.S.
N.S.
T.Saito
匿名 125 名

■栄誉会員
ヨーコ・ナガエ・
チェスキーナ

遺贈・相続ご寄付(敬称略)

竹内 容子
齊藤公治メモリアル基金
牧野 李子
岡橋 純男
岡橋 孜

法人定期会員

【定期演奏会】
東京コンテナ工業株式会社



特別後援会員制度のご案内

当楽団では公演の1営業日前までにご欠席の連絡をくださった方には、入場券代は返し致しませんが、特別後援会員として1年間定期公演のプログラムにお名前を掲載させていただきます。当団主催公演の入場券を5%引き(TOKYO SYMPHONY チケットセンター扱い分のみ)にてお求めいただけます。お求めの際に特別後援会員であることをお申し出ください。なお、対象となる演奏会は当団が指定する主催公演です。

安齋 優
東 由美子
星 直樹
前田 泉
森山 雅一郎
山本 淳一
匿名 12 名
(敬称略)

ご連絡はTOKYO SYMPHONY チケットセンター
044-520-1511へお電話をお願いいたします。

Together With TSO
for Music Lovers

東京交響楽団サポート会員

©N. Ikegami

<東京交響楽団サポート会員制度>

東京交響楽団は、一流指揮者の招聘やチャレンジングなプログラミングによる定期演奏会の充実、次世代を担う子供たちの育成等、これまで以上に積極的な演奏活動を展開し、音楽文化の向上に努めて参ります。
そのために不可欠な運営基盤の強化のため、広くご支援をお願いしております。みなさまのご入会を心よりお待ちしております。

個人会員

フレンズ1

年額 **1万円**
～29,999円

フレンズ3

年額 **3万円**
～49,999円

フレンズ5

年額 **5万円**
～99,999円

サークル10

年額 **10万円**
～249,999円

サークル25

年額 **25万円**
～499,999円

サークル50

年額 **50万円**～

法人会員

東京交響楽団とのパートナーシップは、御社のイメージアップにつながるだけではなく、従業員の皆様の福利厚生にもつながります。

ブロンズ

年額 **10万円**～

シルバー

年額 **30万円**～

ゴールド

年額 **50万円**～

ダイヤモンド

年額 **100万円**～

プラチナ

年額 **1000万円**～

会員特典

詳細はHP、
又はお電話でお問合せ下さい

	法人会員	サークル会員	フレンズ会員		
			フレンズ5	フレンズ3	フレンズ1
主催公演へご案内	○	○			
ゲネプロ見学会(年3回以上)	○	○	○	○	
リハーサル見学会(年3回以上)	○	○	○	○	○
ご芳名掲載	○	○	○	○	○
主催公演チケット先行予約 *1	○	○	○	○	○
公演チケットをご優待価格にてご案内 *2	○	○	○	○	○

*1 一部対象外もございます。*2 東京交響楽団の主催公演およびミュージアムザ川崎シンフォニーホール主催公演が対象です。一部対象外もございます。

税制上の優遇措置について

東京交響楽団は内閣府より公益財団法人の認定を受けており、当楽団への御寄附には税制上の優遇措置が施されます。

◎個人の場合:「寄附金額から2,000円引いた金額」の40%分¹⁾について、税金(所得税・個人住民税)を控除されます。

また相続税にも控除が適用されます。

◎法人の場合:「損金算入限度額」が一定の算式に従い、拡大されます。²⁾

¹⁾但し、各該当法令で定められた限度があります。

その他、マッチングギフトやご遺贈、相続ご寄付についてもご案内させていただきます。

公式サイトからクレジットカードでサポート会員にご入会(ご寄付)いただけます。

<http://tokyosymphony.jp/support/procedures.html>



サポート会員へのご入会・お問合せ TEL 044-520-1518

公益財団法人東京交響楽団川崎オフィス 支援開拓本部 E-mail supporters@tokyosymphony.com

Meet the Musicians

楽団員紹介

音楽、人生に熱情を燃やすヴィオリスト

多井 千洋

TAI Chihiro

[ヴィオラ奏者]2016年入団

趣味:土地の歴史に触れる旅



©N. Ikegami

楽器を始めたきっかけ

5歳のとき兄が通っていたチェロ教室で、先生に誘われヴァイオリンを触ったのが最初でした。高校3年生までヴァイオリンは弾いていましたが、教室の友達や関係者と取り組む弦楽合奏で先生方が担当する大きいヴァイオリンの存在が気になり、聴いてみたCDのヴィオラの音色に衝撃を受け、音楽大学受験を機にヴィオラで愛知県立芸術大学に入学。森に閉ざされた山の上で過ごした学生時代は、他の楽器の魅力や、生きている作曲家と作品を創る楽しさに触れる機会に恵まれました。

オーケストラへの憧れ

参加していた弦楽合奏で、音の渦に浸かる喜びが分かる様になって来た小学校5年生の時に、フェスティバルホールで聴いた大阪フィルハーモニー交響楽団の《ドヴォルザーク:交響曲第8番》に大感動し、オーケストラへ更に強い憧れをもつようになりました。東京藝術大学大学院在学中に関西のオーケストラへの入団が叶いましたが、関東で活躍する友人達から刺激を受け、より幅広い企画に関わりたくなり東京交響楽団のオーディションに挑みました。大学で経験したオペレッタが印象的だったので、新国立劇場をはじめオペラも数多く演奏する東京交響楽団に入団させて頂き、充実した日々を送っています。

東京交響楽団で印象深い公演は

2018年に音楽監督ヨナサン・ノット指揮で演奏した《エルガー:オラトリオ「ゲロン

ティアスの夢》です。ノット監督は自身が声楽を学んでいた経緯もあり歌手や合唱の入る曲はどれも素晴らしいですが、この「ゲロンティアスの夢」は、監督のフレー징の巧みさを深く認識する公演になりました。和声を基にした音楽の伸縮から舞台上に湧き立つ独特の緊張感が、演奏者とお客様の関係性を超えて会場全体で作品に没入する集中力を生み出すのだと思います。

自転車の旅

趣味は絞れないくらい沢山ありますが、身近な所だとサイクリングです。片道1時間くらいの距離であれば、普段から都内のリハーサル会場やホールまで自転車で移動することが多いです。また、小学生の頃から探検することが好きで、知らない土地の文化や食、自然に触れるために普段から地図を眺めてはマップに星印を付けています。最近では地方にもシェアサイクルが増え、便利な時代になりました。マルチタスクな日々の中でもこうした時間がリフレッシュになるので、とても大切にしています。



チェロを構える兄と、
楽器を始めたころの私

インタビュー:事務局

NEWS & TOPICS

故・桂冠指揮者 秋山和慶氏の称号について

2025年1月26日に逝去された東京交響楽団桂冠指揮者・秋山和慶氏に対し、2025年10月1日付で「永久名誉音楽監督」の称号を贈ることといたしました。

故・秋山和慶氏は、1963年に東京交響楽団の専属指揮者に就任、1964年2月に当団でデビューを果たしました。1968年には音楽監督・常任指揮者に就任し、2004年からは桂冠指揮者として、60年以上にわたり当団と共に歩み、その歴史と伝統の礎を築きました。

改めて楽団員一同、秋山和慶氏のご生前における東京交響楽団およびクラシック音楽界への多大なるご貢献に深く感謝申し上げます。

新入団

2025年10月1日付

吉江美桜 YOSHIE Mio
[コンサートマスター]

退団

2025年10月31日付

加藤智浩 KATO Tomohiro
[ホルン奏者]

2020年に入団し、5年にわたり活躍いたしました。



©N. Ikegami

NEXT PROGRAM

11/15 (土) 特別演奏会 ラヴェル：歌劇「子どもと魔法」(演奏会形式)
14:00 東京オペラシティコンサートホール

11/16 (日) 第144回 新潟定期演奏会
17:00 リューとぴあ 新潟市民芸術文化会館 コンサートホール

指揮：ジョナサン・ノット

子ども：小泉詠子

お母さん、中国茶碗、とんぼ：加納悦子

肘掛椅子、木：加藤宏隆／柱時計、雄猫：近藤圭

安楽椅子、羊飼いの娘、ふくろう、こうもり：鶴木絵里

火、お姫様、夜泣き鶯：三宅理恵

羊飼いの少年、牝猫、りす：金子美香

ティーポット、小さな老人、雨蛙：糸賀修平

合唱：二期会合唱団(11/15)、にいがた東響コーラス(11/16)

合唱指揮：指導：キハラ良尚、駒井ゆり子(11/16)

ドビュッシー：「夜想曲」よりシレーヌ
デュリュフレ：3つの舞曲
ラヴェル：歌劇「子どもと魔法」
(演奏会形式) (字幕付き)

[11/15] S¥12,000 A¥9,000 B¥7,000
C¥5,000

[11/16] S¥9,000 A¥7,500 B¥6,000
C¥4,500 D¥3,500

リ्यूとぴあチケット専用ダイヤル 025-224-5521(11:00～19:00/休館日除く)

11/22 (土) 第736回 定期演奏会
18:00 サントリーホール

指揮：ジョナサン・ノット

笙：宮田まゆみ

武満徹：セレモニアル マーラー：交響曲 第9番

S¥9,500 A¥7,500 B¥6,500 C¥4,500 P¥3,500

TOKYO SYMPHONY チケットセンター 044-520-1511(平日10:00～18:00/土日祝休)



東京交響楽団

川崎市フランチャイズオーケストラ
新潟市準フランチャイズオーケストラ



公式サイト <https://tokyosymphony.jp>



1946年、東宝交響楽団として創立。1951年に東京交響楽団に改称し、現在に至る。現代音楽の初演などにより、文部大臣賞、毎日芸術賞、文化庁芸術作品賞、サントリー音楽賞、川崎市文化賞等を受賞。サントリーホール、ミュウザ川崎シンフォニーホール、東京オペラシティコンサートホールで主催公演を行うほか、川崎市、新潟市などの行政と提携し、コンサートやアウトリーチを積極的に展開、教育プログラム「こども定期演奏会」「0歳からのオーケストラ」も注目されている。また、新国立劇場のレギュラーオーケストラとして毎年オペラ・バレエ公演を担当。海外公演もウィーン楽友協会をはじめ59都市83公演を開催。2024年より、アジア全体の音楽文化の向上を図る「東京交響楽団アジア・プロジェクト」を展開している。さらに日本のオーケストラとして初の音楽・動画配信サブスクリプションサービスや、VRオーケストラ、電子チケットの導入などITへの取組みも音楽界をリードしており、2020年ペラ・バレエ公演でライブ配信した無観客演奏会は約20万人が視聴、2022年12月には史上最多45カメラによる《第九》公演を配信し注目を集めた。

近年は、音楽監督ジョナサン・ノットとともに、日本のオーケストラ界を牽引する存在として注目を集めている。特に、2022年よりスタートした「R.シュトラウス コンサートオペラシリーズ」は、音楽の友誌「コンサート・ベストテン」において、第1弾《サロメ》(2022年)が第2位、第2弾《エレクトラ》(2023年)が第1位に選出。2024年12月の第3弾《ばらの騎士》も大絶賛を博した。

桂冠指揮者にユベール・スダーン、正指揮者に原田慶太楼、名誉客演指揮者に大友直人、永久名誉音楽監督に秋山和慶を擁する。



The Tokyo Symphony Orchestra, together with music director Jonathan Nott, has been attracting attention as a leader in the Japanese orchestra world. Elektra in Concert Style(2023) won the 1st prize in the "Top 10 Concert 2023" following the 2nd prize of Salome in Concert Style(2022) on Ongaku no Tomo magazine. Der Rosenkavalier in Concert Style (2024) concluded the finale of R. Strauss project with a great acclaim. They won the Best Recording of Music Pen club Japan Award for Opera & Orchestra category and Tokyo Symphony Chorus, Orchestra's amateur chorus also won the prize for Chamber & Chorus category.

Highlights of past seasons with Mo. Nott include Symphony 9 by Beethoven filmed by 45 cameras, the largest record of the orchestra history live-streamed nationwide, Gurre-Lieder by Schoenberg celebrating 15th Anniversary of Muza Kawasaki Symphony Hall, TSO's home and Mozart's Da Ponte Operas in concert style. In March 2020, the live-streamed concert without audience on nico-nico Live Channel which attracted more than 200,000 viewers nationwide, has been a mega-hit in Japan.

Outside of Japan, the orchestra has performed 80 concerts in 59 cities since 1976. Tokyo Symphony Orchestra was founded in 1946 as Toho Symphony Orchestra, and changed its name to Tokyo Symphony Orchestra in April 1951, and has a reputation for giving first performances of a number of contemporary music and opera, and has been regularly performing various operas and ballets at the New National Opera Theatre, Tokyo since its opening in 1997.

マエストロ・シート

【5組10名の小・中・高校生無料ご招待】



NICO NICO
TOKYO SYMPHONY
ニニコ東京交響楽団



音楽・動画配信サイト
[TSO MUSIC & VIDEO
SUBSCRIPTION]
1か月550円(税込)



このプログラムは見やすさ・読みやすさに配慮したユニバーサル・デザインフォントを使用しております。

TOKYO SYMPHONY ORCHESTRA MONTHLY CONCERT BROCHURE

Symphony

Symphony 2025年(令和7年)10月号[非売品]

発行 公益財団法人東京交響楽団 〒169-0073 東京都新宿区百人町2-23-5 TEL 03-3362-6764
<川崎オフィス> 〒212-8554 神奈川県川崎市幸区大宮町1310
ミュウザ川崎セントラルタワー 5階 TEL 044-520-1518

Art Direction & Design : Be.To Bears 印刷 : NHKビジネスクリエイト